

魅

せますす！活き湧く

地域資源

子供の心はぐくむ『楽つみ木広場』の普及を目指して

独立行政法人中小企業基盤整備機構 関東地域活性化支援事務局

PM 池田 章

●息子の一言がつみ木を生み出す

もう10年以上も前の話。当時家具職人だった荻野（株木楽舎社長）さんが『ポール・ラッシュ祭』に家族を誘った時のこと。この祭りは、清里高原を開拓したアメリカの宣教師ポール・ラッシュを偲んで、収穫感謝祭として行われるイベントである。

荻野さんは毎年、この祭りに手作りの家具を出品していた。ところがその年は息子（現専務）が、「おもちゃを作るなら一緒に行ってもいいよ！」と注文をつけた。急遽、工房にあった間伐材を使い、2500個のつみ木を作り、会場へ運んだ。急ごしらえのつみ木の遊び場ではあったが、そこには子供達の歓声があり、活き活きとした笑顔が広がっていた。

このことが荻野さんの心を捉え、つみ木効果による子供の想像力、表現力、協調性などを研究する『木楽舎つみ木研究所』の設立へとつながる。

●発想の転換が事業化につながる

数千個のつみ木の中で、遊びを通じて心のつながりを学んで行く『楽つみ木広場』は口コミやマスコミで広められ、少しずつ認知され始めた。ところが、誰もがよい事業と認めていながら、収益性は低く、その継続性も危ぶまれていた。

そこで、思い立ったのが地域資源活用プログラムの認定である。木楽舎のつみ木は、山梨県のヒノキを使っていて、この県産木材（FSC）が地域資源に指定されている。地域資源を活用した新たな事業をここに計画したのである。

本音を言えば「つみ木」を売っただけでは、そういくらも儲からない。そこで、つみ木に「教育ノウハウ」を載せて付加価値の高い商品を生み出そうと言うもの。売り先は教育関連機関やCSR（企業の社会的責任）に関心の強い企業である。ターゲットを子供から大人に変えただけで、ターゲットが格段に広がった。まさに発想の転換である。

●一人で悩んではダメ

そうは言っても中小企業者や個人事業者は、日頃は目先の仕事に追われたり、資金繰りを考えたりしていることが多く、事業を計画的に考えることは難しい。そのようなときは、色々な人とのコミュニケーションが大切。多くのアイデアを聞き、たくさんさんのヒントを集める。その中

から、問題解決の糸口を探る。

地域資源活用プログラムでは、その道の専門家から意見を聞くことができる。とても、自分ひとりでは思いつかないようなアイデアを提供されることもある。そして、今回のように、専門家の意見が行き詰まってきたつみ木の販売を教育事業として商品化し、「大人」に売ろうと言う、計画につながって行く。

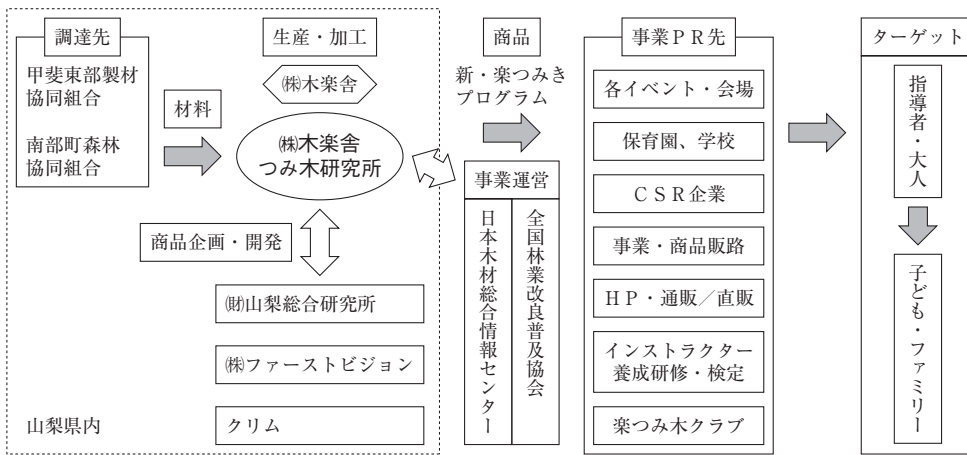
●ハンズオンチームが手助け

今だから言えることだが、荻野さんは今回の国の支援施策もその支援内容も、初めは分からないことだらけだった。認



子供も大人もつみ木遊びに夢中

事業の全体のイメージ像



定の要件すら分からない。まして、申請書の書き方などはちんぷんかんぷん。それを助けたのが、ハンズオンチームである。山梨県の場合は、県庁の職員と拠点のコーディネーターと中小機構のPMが一体になって事業を支援している。

初めは戸惑っていた荻野さんだが、多くのメンバーの助けを借りて、立派な事業計画を立てることができた。

まずは計画のブラッシュアップ段階。アイデアを事業化に結びつけるための検討が次々行われた。初年度にやるべきこと、そして2年目、3年目...とそれぞれテーマを決めて、具体的なアクションプランにまで落とし込んで行く。これまでの勘と経験に頼った大雑把な活動とは大きく違った。正に生業から事業への脱皮が図られたのである。



これが「楽つみ木」だ

●事業化へ向けた取り組み

認定後は、もうひとつのプロジェクトチームを組んでの作業になった。これは拠点コーディネーターからの提案で、木楽舎の不足する経営資源を補うために、実務的な専門家を集めたチーム編成でおこなった。全体プロデュースと教育プログラム開発を地元のシンクタンクが受け持ち、映像やカタログはそれぞれの専門業者に製作を委託した。キックオフミーティングでは、荻野社長から熱い思いや方向性が再度示され、関係者の意識の統一が図られた。

事業開始からほぼ1年が経とうとする今、2年度、3年度の計画を確認したり、修正したりする時期にある。計画にも多少のブレや読み違いができてきている。最終目標、最終商品を今一度、明確にして事業の進捗を図って行かなければならない。ハンズオンチームのフォローアップがますます重要になってくる。

●PMのコメント

社長の荻野さんの目指すところは「失われかけた心と心の架け橋」を創ること。目に見えない、形のないものだけに分かりにくいところもある。今回の株式会社木楽舎の事業は、つみ木を使った子供の情操教

育の「見える化」である。

社会貢献性が強いだけに、是非とも継続して欲しい。継続性を求めるなら適切な利益はどうしても必要で、更なる発展を遂げるためには大いに儲けてもらうことも大切である。子供達の健全な成長を促し、地域社会を明るくするために本事業の成功を共に成し遂げてみたいと考えている。



荻野雅之社長

会社概要

企業名 株式会社 木楽舎
 住所 山梨県中央市大田和1965
 電話 055-273-4472
 FAX 055-273-4088
 設立 平成20年4月1日
 代表者 荻野雅之
 資本金 200万円
 年商 2000万円
 従業員数 3名
 認定日 平成20年4月11日